

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100968		
法人名	株式会社メディフル		
事業所名	グループホームメディフル藤田(花)		
所在地	岡山県岡山市南区藤田1134番地2		
自己評価作成日	平成23年6月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年1月1日に指定を受け、1月2日空ユニット開所、同16日にGH泉田廃止により藤田へ移転、花ユニット開所となりました。空ユニットは、在宅より初めての入居となる方々ばかりであり、また花ユニットは泉田より一気に引越という、認知症の方々にとっては大きなストレスとなりましたので、職員は、何より入居者の心の安心を第一とし、ご本人のペースを見守りながら、お一人お一人と一緒に過ごす時間を大切にしてきました。また、入居者の安定がご家族の安心でもあると考え、日々の暮らしの様子から気にかかる点までこまめに連絡、お伝えをしてきました。ようやく、入居者、職員ともに沢山の笑顔が見られるようになってきましたので、今後は、さらにお一人お一人に合わせた支援、ケアを目指すと共に、地域の方々との交流を深め、地域に根付いたGHを目指していきたくと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100968&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年12月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『「できない」と決めつけない、「できるでしょ」と押し付けない、「してあげる」と取り上げない』の基本は、研修等を通じ、しっかりと職員に浸透している。利用者を優しく、そして的確に見守るケアの甲斐があって、例えば、紙パンツとパッド使用の人が、職員の観察と言葉がけにより、トイレで排泄する習慣が戻り、布パンツで過ごせるようになった。毎月の請求書に添えて送る、職員手書きの様子を細かく伝えるふみは、家族に喜ばれている。利用者が亡くなった後も、畑を手伝いに来る家族もあり、いかに強い信頼の絆で結ばれているかが伺える。協力の医療機関と24時間連絡可能な連携体制も心強い。新たな地でのスタートではあるが、地域とのつながりにも力を注ぎ、すでに民生委員などを通じて、防災対策や高齢者同士の交流が行われるなど、地域の一員としての役割を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の施設としてスタッフ間で日々の申し送りやミーティングで意義や理念の共有を図り確認し合いながら実践につなげています。	利用者にとって事業所は家であり、職員や地域と共に安心して生活できるよう、「決めつけない・押し付けない、取り上げない」を理念としている。入社研修で理念に基づいたケアが何かを学び、日頃から職員同士で意見交換し、意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し民生委員の協力を得て地域行事などで交流を始めたところである。今後は、老人会や学校等と接点を持ちながら、地域住民にも理解していただけるよう努めています。	事業所の開設時から民生委員とは相談を重ねている。町内会に入り、地区の一員として、掃除や運動会、夏祭り等、多くの行事に積極的に参加している。愛育委員会や婦人会などからも、行事や研修を紹介してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所間がなく地域に向けての取り組みは不十分なので日々の生活の中で地域の中の「家」として、そこに暮らす「人」として地域の方と付き合いけるようにしていきたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域民生委員の協力を得ながら現在準備を進めています。	運営推進会議を初めて開き、地域団体等から多数の参加があった。事業所の取り組みや利用者の様子を報告し、参加者から意見を聞いたり、災害時の避難場所や連絡網作成の提案を受けた。会議を機に、地域の高齢者交流会への参加につながった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者との協力関係を築けるように相談や報告を欠かさず行い、事業所の理解や協力関係を築いていきたいと思っています。	事業所開設から間もなく、まだ市との協力関係は薄く、運営推進会議への市の参加はまだない。しかし、書類等を直接持参し、担当者と顔を合わせて相談や報告をすることで、関係づくりを進めている。	市への働きかけを続ける中で、運営推進会議への参加を依頼し、市からも足を運んでもらうことで、互いを知り、協力関係が育まれていくよう、期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加した職員が報告を行ったり、日々の申し送りやミーティングにて全職員で確認し合いながら取り組んでいる。	付近に用水路が多く、安全のために玄関を施錠しているが、利用者が外に出たい時は、職員が付き添っている。研修や勉強会などを通じて、言葉による拘束もしないよう、全員が取り組んでいるので、利用者は落ち着き、穏やかである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について全職員で話し合い確認し、個人の尊厳を守りケアにあたっている。身体的な虐待だけでなくさりげない声かけや利用者に威圧感を感じさせない等精神的な虐待なども起こさないように努めています。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が報告を行い資料の回覧も行っているが、制度の理解においては不十分な状況です。今後、内部勉強会などで全職員へ周知を図ると共に制度の活用に努めていきたいと思いをします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の対応は管理者が行い、必ず家族と話し合いの場を設け十分な説明をし納得を得られるように配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際には積極的に日頃の様子をお伝えし、ご家族からも話を聞くように心掛けています。意見や要望を伝えてもらえる関係を築いていきたいと思っています。	家族の感謝の声の内に、なかなか表せない思いがあることを職員は理解している。普段から利用者や家族の声に耳を傾け、信頼関係を築けるように努め、聞き取った内容は全員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者を交えた定期的なミーティングでは、職員の意見や提案が聞き入れられるように努めています。	管理者は、月1回の職員会議で、意見や要望を聞く機会を設けると共に、普段から職員に声をかけ、相談がしやすいような雰囲気を作っている。管理者と職員とは、気軽に何でも話せる関係が築かれ、できることは、すぐ実行に移している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は個人面談を定期的に設けており、常に職員との意見交換ができるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の回覧を行い参加出来る環境作りを行っています。また、職員の経験や実績に応じた研修内容への参加を意識しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームとの交流は出来ませんが、グループホーム協会の主催する研修会等に参加することによりネットワークづくりを図っています。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族・サービス担当者等から話を詳しく聞き情報を職員間で共有しながら安心・信頼に繋げていけるように心掛けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めている事を理解し職員で話し合いを行い、入居後もご家族と何気ない話ができ、気軽に声をかけてもらえるようにゆとりのある対応を心掛けています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際しての話し合いで、ご家族の思いを受け止めた上で、長期的な展望も含め必要としている支援を見極め場合によっては他のサービス利用も含めた情報提供も行っています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人として関係造りを目指し、年配者に対して甘えたり頼ったりと職員の年齢や場面に応じての適切な関わりを心掛けています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時や毎月のお便りで、日頃の様子や変化を伝えると共に、ご家族からの情報を頂きながらご本人と一緒に支える支援を行っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅生活からの馴染みの人や場所などをご本人やご家族からも情報を得て、出来る限り、「行く」「会う」の実現ができるよう意識しています。	本人を連れ出すのに不安を感じる家族には、職員が付き添って出かける。知り合いも高齢化し、会える機会が減っているが、本人が望む馴染みの場所にできるだけ行けるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関わり合い、支え合えるような声かけができるような支援や介入を行い円滑な人間関係が築けるように心掛けています。			

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も移り住む関係者に対して、これまでの生活の情報を詳しく伝え継続的な対応をしていきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気ない会話や家族からも情報を得ながらその人らしい生活が出来るように意識して努めています。	「喫茶店に行きたい」と言われれば、何とかして実現するという具合に、何気ない言葉から思いを汲み取り、本人ができるうちに多くの支援をしようと取り組んでいる。寂しさや不安を言えない人もいるので、言葉がけを以前より増やしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から今までの生活歴などの情報を得て職員間での共有は出来ており、また、新しい情報収集にも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時に健康状態も含め気付きや変化などを細かく伝え、状況に応じたケア支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族にご意向を聞きながら、定期的または随時にカンファレンスを開きモニタリングを行いながら、計画を作成している。今後は、カンファレンスの場に直接同席していただく機会も増やしていきたい。	利用者の状態に応じて柔軟に介護計画を見直しているため、その期間は1ヶ月や3ヶ月など各人によって異なる。家族の希望を配慮し、モニタリングの結果などから職員で話し合っ決めていくが、今後は本人や家族に同席を促す予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や身体変化を個別に記録し、職員間で情報共有しています。また、介護計画の見直しの際に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族を交えての外食や季節に合わせてのドライブなど柔軟な対応を行っていますが、今までと同じようにはなく、新しい発想が出来るように取り組みたいと思っています。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコミュニティ行事等の催しに参加出来るように情報収集を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療と受診の他にも訪問歯科や専門医への受診など適切な支援をご家族の理解や協力を得ながら行っています。	定期的な往診と24時間の連絡体制がある協力医に、「安心できる」と多くの利用者や家族がかかりつけ医を変更している。また、眼科、耳鼻科等は家族の付き添いで受診しているが、緊急時などは職員が代わって行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携しているクリニック看護師の定期訪問の際、に相談や指導を受けることができおり、入居者の安心に繋げることが出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族との連絡を密に取り、基本的な情報だけでなく、普段の生活の情報を伝えることを心掛け、認知症であるがための負担を最小限にさせていただけるよう努めていきたいと思ひます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取り方針の説明を行っています。終末期のあり方については、ご本人、ご家族の意向を確認しながら、医師、看護師、職員との連携体制を取り、安心して最期を迎えられるような支援に取り組んでいます。	入居時に、利用者、家族に重度化と看取りに関する方針を説明し、文書を渡している。最近、家族の希望により、初めての看取りを行った。医師、管理者の24時間対応で、職員は安心して支援ができ、家族にも喜ばれた。関連する勉強会を実施したり、外部研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、夜間時の緊急マニュアルを作成しています。今後、応急手当普及員による救命講習の勉強会を行いマニュアルの周知徹底を図っていきたくと思ひます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開所してからの避難訓練の実施は行っていないが、先ずは夜間想定での避難訓練を予定しています。	7月に夜間想定、12月に日中想定での避難訓練を利用者も参加して行った。職員はその数日前に通報装置の使い方などを研修し、訓練に臨んだ。しかし、災害マニュアルはまだ作られていない。地域での防災の集まりに参加したり、運営推進会議で議題に挙げながら、地域と協力していく予定である。	避難経路、避難場所、緊急連絡網等が記載された防災マニュアルを早急に作成し、万が一に備えて、職員全員に周知徹底することを期待したい。

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守ったケアに職員が共通の意識を持ち、一人ひとりに合った親しみやすい声かけを心がけています。	利用者に不快感を抱かせないという共通の意識を持ち、一人ひとりの性格や習慣、気持ちを大切にされた言葉かけや見守り、介助をしている。職員の利用者を「認める」態度が、利用者にも伝わり、利用者同士でも認め合う関係が築けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を大切にし、決められた枠にとらわれない声かけや気持ちを引き出すことが出来るような支援に取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムを大切に考え個々のペースやその日の状況に応じた支援を行っています。食事や入浴時間もご本人の意思に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や季節に合った服装に気を配り、支援を行っています。外出や行事の時には普段以上におしゃれが出来るようご本人と相談しながら洋服を選んでいきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや健康状態に応じ代替品や調理方法の工夫を行い対応しています。また、買い物から調理、後片付けを利用者と一緒に楽しみながら行っています。	食材の買い物や菜園での野菜の収穫、調理や後片付けを利用者共に行い、それが自分の役割と思っている人もいます。各人に応じた調理方法を工夫し、「みんなと同じものを口から食べることを諦めない」支援を実現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況やバランス、その日の体調など職員間で把握し、三度の食事にこだわらず必要に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや援助など一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施しています。また、歯科往診での義歯メンテナンスの支援も行っています。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心掛けており、排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導や声かけの援助を行っています。	排泄チェック表と利用者の様子から、各人の排泄パターンを把握し、タイミングを見計らった言葉かけや誘導で、できるだけトイレで排泄できるようにしている。おむつの使用が減ったり、自らトイレに行けるようになり、布パンツに戻った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況をチェック表等で把握し、薬だけに頼らず水分摂取や食事などでスムーズな排便を促すよう工夫に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を把握し、気持ちよく入浴してもらうような声かけや誘導を心掛けています。拒否のある方には、足浴や清拭での援助を行っています。	毎日入浴する人や夜間寝る前など、できるだけ本人の希望に添っている。入浴を嫌がる場合は、無理強いせず、日や時間を改めたり、足浴や清拭に変えて柔軟に対応している。足が冷えて夜眠れない時は、足浴で温めるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況の把握を職員間で毎日共有しており、状況に応じて日中も休息がとれるようにしています。また、入床前の居室温度や寝具の確認などにも配慮し、落ち着いて眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者の服用している薬の種類、作用、用量などについて把握しています。また、症状の変化などの状態を記録し、医師や看護師に報告、相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や将棋など趣味の支援や、家事や畑での野菜栽培などを日々の生活に取り入れて、役割や個々の生活歴を活かしながら、自分の居場所を確立して頂けるよう支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い物や、ドライブ、散歩等の外出をしています。また、家族を交えての食事などの外出支援も行っています。	天気の良い日はウッドデッキでひなたぼっこをしたり、職員の付き添いで、近所の散歩や食材の買い物に行くなど、なるべく外に出る機会を設けている。車での外出は、利用者の体力面と車いす対応トイレなどの設備面から、いつも決まった公園になりがちであるが、利用者には好評である。	

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談を行いながら、お金を持って生活をするという安心感に繋げた支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援は、希望を引き出せておらず現在出来ていません。希望があれば電話をすることは自由であり、ご家族にも協力していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や壁面等に季節感を取り入れ、落ち着いて過ごせる空間作りに努めています。中庭へ通じるペランダは広々としており温かみのある手作りのベンチでは日光浴をされています。	整理整頓されたホールは、落ち着いた感じの中に、生花や行事の写真などを飾って季節感を出している。利用者は馴染みの顔を求めて、自然と集まり、本を読んだり、テレビを見たりと、安心して思い思いに過ごしている。冬にはコタツを出すなど、家庭的な雰囲気を出す工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	心地よい場所で、馴染みの人と穏やかに過ごしていただけるような空間作りに努めていますが、自分の席を主張され、トラブルになることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の馴染みの物やお気に入りの小物などを部屋に置き、落ち着いてくつろげる空間を作れるようにご家族との協力や理解に努めています。	タンス、机など愛用の家具や、ぬいぐるみなどが持ち込まれ、心地良く過ごせる空間となっている。壁に飾られた賞状を指さして、うれしそうに話す人もいた。出入口には、一人ずつデザインの違う、職員手作りの名札や切り絵が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にとって使いやすい工夫や表示の仕方を考えています。また、安全を盾に全てを取り上げてしまわないように気をつけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100968		
法人名	株式会社メディフル		
事業所名	グループホームメディフル藤田(空)		
所在地	岡山県岡山市南区藤田1134番地2		
自己評価作成日	平成23年6月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100968&SCD=320&PCD=33
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年12月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設を目指す為に、スタッフ全員が理念を理解する必要があり、ミーティングや日々の申し送り時などで話し合っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事などで交流を深めようとしています。生活の中では、近所への買い物など地域への外出を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への取り組みは、まだ不十分であるため今後、取り組んでいきたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所後まだ行われていない。今後、ホームについての事業報告や課題など話し合いを行い理解を得ると共に、今後の事業活動へ向けて活かせるように努めていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者との協力を築けるように、今後相談や報告を欠かさず伝えるように努めていきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為がないか、職員間で話し合っている。やむを得ず玄関に施錠していることもあるが、利用者が出たい場合には、スタッフと共に散歩に行くなどし、拘束にならない様に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃行っている何気ない言葉掛け、対応ひとつでも、本人にとって苦痛を伴えば虐待と捉えられることを認識し、虐待防止に対する意識を高めるよう努めています。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者によって身近なものに感じられていますが、制度に関しての詳しい知識はない状況なので、今後勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族が理解、納得できるまで、文書と共に十分に説明をし、また、説明の際は、専門用語で理解しづらくないように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とお会いした際には、日頃の様子を伝えたり、以前の事を伺うよう努めている。また、何かあればすぐに電話などで報告・相談をして、ご家族の意向を大切にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、スタッフが参加するミーティングを月1回定期的に行い、職員が意見を言う場が設けられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員の状況、現場の状況を把握し、すぐに相談等できる環境にある。各自の内部勉強会、外部研修などの参加を促し意欲的に働ける職場環境が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を見極め、各自に合った研修に参加し、スキルアップに努めている。また、研修後には報告書、ミーティングなどで全スタッフにも周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加にて、他施設の職員との交流はあるが、相互訪問などの活動は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族からの話・要望を詳しくお聞きしながら、日課や生活環境をできるだけ崩さず、不安の軽減に努めた援助内容考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までのご家族の思いや悩みに耳を傾け納得できるまで話をお聞きする。ご家族が求めていることを大切に、どのような対応をしていくか検討をしていき無理のない範囲で関わりを持っていただけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に要望をお聞きしながら援助内容を決めている。その際、支援の可能・不可能もきちんとお話ししている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々は年長者である人生の先輩として、日々の生活の中で教わることも沢山あり、その場で一緒に過ごす時間を大切にしたい関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、その都度状況を伝え、ご家族からの意見もいただいている。また、毎月職員からの手紙によって生活の様子をお知らせし利用者を支えていくための関係が築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開所間もなく、入居前の生活の場への外出はまだできていない。ご家族の協力も得ながら機会を作り、馴染みの場所での交流が途切れないようにしていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見守りながら家事や畑仕事など、職員も交え、利用者同士の交流の場を設けている。また、一人の時間も大切に、無理のない範囲で関わりながら孤立しない様見守っていききたい。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者は、一名おられ、時折様子を伺ってはいるが、積極的な支援はできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で利用者の嗜好や希望を尋ねる。また、表情から思いを理解し、希望や意向に沿った支援が出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中から、これまでの生活を把握する意識を持ち、またご家族からもできるだけ詳しくお聞きするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のこれまでの生活歴を知ることにより理解を深め、より暮らしやすくなるよう努めている。ご家族にも協力してもらい、今後も利用者の理解を深めていきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティング・申し送りで課題について話し合うと共に、ご本人ご家族の意向・要望を伺いケアプランを作成している。プラン作成後の本人への説明や同意は不十分に思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や身体状況の変化を職員間で共有できている。また、個別記録をもとに、カンファレンスを行い、サービス計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の買い物・散歩・ドライブなどを継続的に行っている。今後は、希望によっては外部の教室等への参加も考えていきたい。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつではあるが、老人会、地域婦人会の催しなどで地域交流を始めている。今後も地域交流を継続しながら支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療があるとともに、緊急時にはいつでも対応できる状態にある。必要に応じて歯科医の往診も可能である。また、本人やご家族が希望する医療機関を受診されている方もおられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変時には早急に看護師に相談し、必要であれば訪問・受診を行い指示を受け対応している。また、定期的な看護師訪問にて気付いたこと、気になることを報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院関係者、主治医、ご家族との話し合いを大切に、職員間での情報交換を行い状況の把握に努めている。たま、病院関係者と主治医は密に連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関しての説明は行っている。具体的な意向については、まだ十分お伺いできてはいない。急な場面にも対応できるよう、今後は日頃から少しずつ話をしていきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置・緊急時の訓練はまだ行われていないが、積極的に研修などに参加し職員間での勉強会を行っていききたい。職員は緊急時の連絡先を記したネックストラップを常に携帯している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在はまだ行えていない。年2回の避難訓練を予定。利用者参加の夜間想定・昼間想定を行う。緊急時の為の職員間の連絡網があり連携して対応出来る様にしている。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭に置き、本人の主張や想いを受け止めつつ、プライドを傷付けないようそっと支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて問いかけの方法を変えたり、表情を読み取るなどし、ご本人の希望や想いを大切にして自己決定を促している。また、利用者の家であることを意識した支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に、職員の都合を優先させてしまうこともあるが、食事・入浴・睡眠など出来るだけ本人のペースに合わせて生活してもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、化粧をしたり、外出し美容院に行かれたり、好きな服をご家族の協力の下、購入するなど利用者にあったオシャレが出来ている。爪切りなど細かい部分の配慮が出来ていない事がある為気をつけていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、利用者からの希望があれば変更・食品の代替えをする事も臨機応変に行っている。また、買い物や調理を利用者と楽しく行っており、庭で野菜を栽培し育て、食す事も喜んで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を下に調理し、食事の摂取量を把握している。食欲がない方は果物や本人の好きな物を食べて頂くなどしている。体調に応じて水分量・排泄量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己管理が出来る方には自身で行って頂いているため、実際の口腔内の状態把握は不十分。義歯洗浄も拒否のある方、また毎食後の口腔ケアが出来ていないので徹底していきたい。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表使用しながら利用者の排泄間隔の把握に努め、声かけ・トイレ誘導にて不快な思いをしないよう注意している。入居時は失禁が目立っていた方もトイレでの排泄が可能になりご家族も喜んでくださっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な方には便薬を使用しているが、できる限り乳製品や水分を摂れるようにしている。排泄直後に尋ねたり、見せていただくなどし、排便の有無を確認、表に記入し把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の希望に応じ昼夜問わず入れるようにしている。体調や季節、利用者の気分によって自由に出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を大切に、日中・夜間共に本人ペースで休息をとってもらっている。夜間眠れない時はスタッフと一緒に過ごし安心してもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬時、利用者の名前、日付、時間帯などを袋に記入し投薬ミスのないようにしている。また、投薬の有無をチェック表にて全スタッフが確認できるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、将棋等、趣味を生かした気分転換を図っている。個々の生活歴、嗜好を知っていくことにより今後も役割を楽しんで出来る環境を増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物やドライブ・施設周辺の散歩等、外出の機会を設けているが、決まった方になりがちなのが課題。ご家族と一緒にの外出も出ています。		

グループホームメディフル藤田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と相談の上、個人で現金を持たれている方もおられる。外出時、ご自身で支払いをされている場合もあるが、職員が管理している場合が殆ど。今後は少額でも支払をしていただく機会を増やしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があれば電話をかけたり、受けたりの支援を行っている。ご自身の携帯電話を持たれている方もおられる。繰り返し電話への訴えがある場合は声かけ対応で納得してもらう場合がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁や居室前には季節感のある飾りを利用者と一緒に作る、花を飾るなどし、季節を感じていただいている。また、トイレや居室前には看板を掛けるなどし、混乱を防ぐように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはワンフロアで、テレビ前にソファを置き自由にくつろいでいただいている。食卓用のテーブルは食事以外でも自由に使用していただき皆さまとの共有空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、馴染みの家具や使い慣れた物があり、それぞれの好みを大切に、自由な生活空間を作り落ち着いて過ごせるよう対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」までを職員がしてしまうことのないよう気を付け積極的に色々な事に取り組んでいただいています。また、「できない」と決めつけたり、危険だからと回避することばかりにならないよう心がけています。		